

2017年度 研究センター事業報告書

研究センター名	加藤周一現代思想研究センター
研究センター長名	鷺巣 力

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

当研究センターの研究は「加藤周一を軸とした戦後日本思想の検証」を基本的な主題とするが、この主題のもとに、ふたつの研究が進められた。ひとつは基礎研究となる加藤周一はじめ戦後日本思想史のなかで重要な位置を占める知識人——たとえば、林達夫、丸山眞男、鶴見俊輔などの研究を進めること。これは「加藤周一研究会」で発表および討議し、加藤以外の知識人については各メンバーの個別研究に委ねられた。もうひとつがその「研究成果活用」である。具体的には、2016年以降進めているが、加藤周一文庫が所蔵する「手稿ノート」のデジタルアーカイブ化である。今年度は《Journal Intime 1948-1949》、《Journal Intime 1950-1951》を公開した。このデジタルアーカイブはキーワード検索ができるアーカイブとして構築される。さらに昨年度に続いて「第2回加藤周一記念講演会」をもち、札幌大学の公開講座で講演し、出版物の刊行準備作業を進めた。

なお東京女子大学「丸山眞男比較思想研究センター」との研究提携を合意し、2017年12月に協定書を交わした。

(I) 基礎研究

(1) 加藤研究会

本年度は若手研究者に発表の場を与えるべく、若手研究者中心の研究発表を組み立てた。

①西澤忠志「加藤周一における音楽《体験》」(2017年4月、本学大学院生、デジタルアーカイブ化作業スタッフ)

②猪原透「加藤周一と太田正雄(木下柰太郎)」(2017年4月、本学非常勤講師、デジタルアーカイブ化作業スタッフ)

③石塚純一「網野善彦、山口昌男、加藤周一——著者と編集者」(2017年6月、当研究センター客員協力研究員)

④久保雄太郎「加藤周一における「日本と西洋」の思想史」(2017年7月、東北大学大学院生)

⑤川口雄一「東京女子大学丸山眞男文庫の意義と展望」(2018年2月、東京女子大学丸山センター研究員、当研究センター客員協力研究員)

(2) 各自研究

戦後思想史で重要な役割を果たした知識人の研究を進めており、詳細は研究実績の欄に記載する。

(II) 研究成果活用

(1) デジタルアーカイブ化

本年度は《Journal Intime 1948-1949》、《Journal Intime 1950-1951》を公開した。加藤が論壇・文壇に登場した頃の未公開日記であり、若き加藤周一を理解するうえで重要な資料となるものである。

2018年度に公開する四つのノート、すなわち『詩作ノート』『狂雲集註』『Notes on Arts』『1968-1969』の整理作業に入った。これらは加藤の代表作である『日本文学史序説』『日本 その心とかたち』『言葉と戦車』を執筆するためのノートであった。

(2) 第2回加藤周一記念講演会および札幌大学創立50周年記念講演会

本年度は浅田彰氏を招き、「加藤周一を引き継ぐために——普遍的知識人の時代は終わったか？」と題した講演を行なった。これは朝日新聞、京都新聞にも報じられた。

札幌大学創立50周年記念講演会に招聘され、鷺巣センター長が「活きた文庫を目指して——加藤周一文庫の現在と将来」と題した講演を行ない、この講演は札幌大学が刊行した講演録『個人文庫をもつ大学——その意義と可能性』に収録された。

(3) 丸山眞男記念比較思想研究センター報告書への特別寄稿

東京女子大学「丸山眞男記念比較思想研究センター」との研究提携の一環として、同研究センター報告第13号に「加藤周一文庫」と加藤周一の方法」と題した論考を鷺巣センター長が寄稿した。

(4) 出版物の編集作業

今秋刊行予定『青春ノート(抄)』(人文書院)の編集作業と校註作業とを半田研究員と鷺巣センター長が進めた。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2018年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位
センター長	鷺巣 力	衣笠総合研究機構	客員教授
運営委員	加國 尚志	文学部	教授
	湯浅 俊彦	文学部	教授
	西岡 亜紀	文学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	小関 素明	文学部	教授
	中川 成美	文学部	特任教授
	根津 朝彦	産業社会学部	准教授
	福間 良明	産業社会学部	教授
学内の若手研究者	半田 侑子	衣笠総合研究機構	研究員
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	猪原 透	文学部	授業担当講師
	住田 翔子	産業社会学部	非常勤講師
	西澤 忠志	先端総合学術研究科	一貫制博士課程2回生
客員協力研究員	樋口 陽一	東京大学	名誉教授
	三浦 信孝	中央大学文学部	名誉教授
	ジュリー・ブロック	京都工芸繊維大学・工芸科学研究科	教授
	彭 佳紅	帝塚山学院大学・人間科学部	教授
	桜井 均	立正大学・文学部	教授
	石塚 純一	法政大学大学院	非常勤講師
	龍澤 武	東アジア出版人会議	理事
	宮村 治雄	成蹊大学アジア太平洋研究センター	客員研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	川口 雄一	東京女子大学	職員
	野口 雅弘	成蹊大学	教授
	富山 仁貴	関西学院大学文学研究科	学振特別研究員DC
研究所・センター構成員 計 24名 (うち学内の若手研究者 計 1名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2018年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	湯浅 俊彦	大学生が考えたこれからの出版と図書館—立命館大学文学部湯浅ゼミの軌跡	編著	2017年4月	出版メディアパル		pp.2-3 pp.8-22 pp.204-218
2	湯浅 俊彦	読書の自由と図書館—石塚栄二先生卒寿記念論集	分担執筆	2017年9月	日本図書館研究会	石塚栄二先生の卒寿をお祝いする会編	pp.208-212
3	中川 成美	『戦争を読む』	単著	2017年	岩波書店		
4	彭 佳紅	近代日本作家の「仮名文学」としての漢詩—夏目漱石・井伏鱒二・加藤周一の漢詩受容	単著	2017年10月	新典社	中西進	pp.314-334
5	桜井 均	『アーカイブ研究:「ある人生」の彼方へ—初期テレビ・ドキュメンタリーの底流を探る—』	単著	2017年11月	NHK放送文化研究所、NHK出版、「報送研究と調査」2017年11月号		pp.62-79
6	川口 雄一	『札幌大学創立50周年記念公開講座 個人文庫をもつ大学: その意義と可能性』	共著	2018年3月	札幌大学	鷲巢力、石塚純一	
7	樋口 陽一	六訂憲法入門	単著	2017年	勁草書房		
8	野口 雅弘	Recht als Kultur? Beiträge zu Max Webers Soziologie des Rechts, "A Weberian Approach to Japanese Legal Culture without the 'Sociology of Law': Takeyoshi Kawashima and his Search for 'Universalism'"	共著	2017年10月	Vittorio Klostermann		
9	宮村 治雄	『語る藤田省三』	解説	2017年6月	岩波現代文庫	竹内光浩、本堂明、武藤武義	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	鷲巢 力	林達夫への精神的逍遙 (5)	単著	2017年4月	イタリア書房 『イタリア図書』 56号		pp.10-17	無
2	鷲巢 力	林達夫への精神的逍遙 (6)	単著	2017年10月	イタリア書房 『イタリア図書』 57号		pp.28-36	無
3	加國 尚志	抽象芸術と感情—アンリの生の現象学からリタオールの崇高—前衛論	単著	2017年5月	ミシェル・アンリ哲学会 『ミシェル・アンリ研究』 Vol.7		pp.21-39	無
4	加國 尚志	キアスム、非連続の連続—西田哲学とメルロ＝ポンティ存在論の接するところ	単著	2017年7月	西田哲学会 『西田哲学会年報』 第14号		pp.72-84	無
5	加國 尚志	メルロ＝ポンティとイメージの問題	単著	2018年1月	『形象』 3		pp.44-64	無
6	中川 成美	文学と情動—発見としてのプロレタリア文学	単著	2017年8月	『立命館文学』 (652)		pp.1167-1177	無
7	中川 成美	トラベル・ライティングという機構—文学とツーリズム—	単著	2017年9月	『昭和文学研究』 (75)		pp.18-28	無
8	Julie Brock	Traduction, critique et création. La réception japonaise de Stendhal comme une fonction de la critique sociale		2017年	Le Comparatisme comme approche critique. Local et mondial : circulations	Anne Tomiche (dir.)	pp.483-498	

		(1900-1922)						
9	Julie Brock	La prière de l'amour. Traduire les deux sens de kohu, «prier» et «aimer», dans un poème du Man'yōshū		2017年	Des mots aux Actes, n°6, Traduire le sacré Classiques Garnier 出版	Florence Lautel-Ribstein (éd.)	pp.339-351	
10	Julie Brock	L'œuvre littéraire comme un germe de la création - Une lecture singulière du roman La Face d'un autre d'Abe Kōbō		2017年12月	Revue Internationale d'Art et d'Artologie (RIAA)	Marc-Mathieu Münch (dir)	pp.21-27	
11	川口 雄一	敗戦直後の長野県における丸山眞男の講演・講義活動——アーカイブ資料にみられる「悔恨共同体」の位相——	単著	2018年3月	『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第13号			無
12	野口 雅弘	「なんちゃらファースト」と悪		2017年4月	αシノドス 217号		pp.3-14	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	加國 尚志	メルロ＝ポンティにおける現象学と形而上学	2017年9月	土井道子記念京都哲学基金シンポジウム、ガーデンパレス京都	
2	中川 成美	転向という心情的倫理	2017年7月1日	Tenko in Trans-War Japan: Culture, Politics, History 於・リーズ大学	
3	半田 侑子	2017年加藤周一—加藤周一を再考する意味—	2017年10月10日	ライスボールセミナー、立命館大学	
4	川口 雄一	東京女子大学丸山眞男文庫の意義と展望——丸山眞男研究史のなかの位置——	2017年10月	札幌大学創立50周年記念公開講座（個人文庫をもつ大学：その意義と可能性）	
5	川口 雄一	戦後日本思想史の方法としてのアーカイブ——1950年代の丸山眞男をめぐる研究と丸山文庫	2018年2月	立命館大学加藤周一現代思想研究センター研究会	
6	野口 雅弘	「政治（科）学者の政党研究と政治思想史研究者の政党（・党派）研究——オットー・キルヒハイマーを題材にして」	2017年9月23日	日本政治学会、法政大学	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第2回加藤周一記念講演会	衣笠キャンパス	2017年11月	300名	立命館大学平井嘉一郎記念図書館
2	2017年度第1回加藤周一研究会	衣笠キャンパス	2017年4月	10名	
3	2017年度第2回加藤周一研究会	衣笠キャンパス	2017年6月	20名	
4	2017年度第3回加藤周一研究会	衣笠キャンパス	2017年7月	10名	
5	2017年度第4回加藤周一研究会	衣笠キャンパス	2018年2月	10名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	鷺巣 力	加藤周一さんの思考引き継ぐ大切さ強調	朝日新聞	2017年11月21日
2	鷺巣 力	知識人のあり方とは	京都新聞	2017年11月21日

3	鷺巣 力	研究者の個人文庫 意義と可能性を 探る	朝日新聞	2017年10月5日
4	鷺巣 力	「知の巨人」の源泉間近に	北海道新聞	2017年11月3日
5	鷺巣 力	招待講演「加藤周一文庫の現在と将来— 活きた文庫を目指して」札幌大学創立50周年企画「個人文庫をもつ 大学 その意義と可能性」	札幌大学	2017年10月
6	加國 尚志	「メルロ＝ポンティにおける現象学と形而上学」土井道子記念京都哲学 基金シンポジウム	ガーデンパレス京都	2017年9月
7	半田 侑子	「探求人」	京都新聞	2017年5月20日
8	川口 雄一	桑原武夫氏の蔵書廃棄—背景に図書館への 寄贈問題（インタビュー記事）	『産経新聞』6月5日付第9面	2017年6月
9	川口 雄一	研究者資料アーカイブ調査	札幌大学山口昌男文庫・川島武宜文庫	2017年10月
10	川口 雄一	丸山文庫所蔵資料の公開と利用状況 (2017年) (報告記事・共著)	丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第13号	2018年3月
11	川口 雄一	竹内好・武田泰淳・武田百合子書簡 丸山眞男宛 25点 (共著)	『丸山眞男記念比較思想研究センター報告』第13号	2018年3月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当無し					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	鷺巣 力	加藤周一を軸とした戦後日本思想の検証	基盤研究 (B)	2017年4月	2020年3月	代表
2	加國 尚志	間文化性の理論的・実践的探求—間文化性の 現象学の新展開	基盤研究 (B)	2014年4月	2019年3月	代表
3	加國 尚志	平和博物館における戦争体験継承のための 展示モデル構築	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2019年3月	分担者
4	中島(西岡) 亜紀	福永武彦と加藤周一を通じた1930～40年代の 若手文学者の知的ネットワークの解明	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
5	中川成美	クィア理論と日本文学—クィア・リーディングの 可能性と実践	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
6	根津 朝彦	共同通信社のジャーナリズム史研究—ジャーナリストの 思想を中心に	若手研究 (B)	2016年4月	2019年3月	代表
7	福間 良明	転換期としての「昭和50年代」と大衆メディア文化の 変容	基盤研究 (B)	2017年4月	2021年3月	代表
8	野口 雅弘	オットー・キルヒハイマーの政治思想と「包括政党」 テーゼの再検討	基盤研究 (C)	2017年4月	2020年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
該当無し						

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								